

新潟県立大学大学院国際地域学研究科

令和5年度(2023年度)10月入学・令和6年度(2024年度)

社会人特別選抜

指定される問題について、適宜文献を引用しながら小論文を作成してください。使用言語は日本語と英語のどちらでもよい。ただし、日本語の場合は5,000字程度、英語の場合は2,500語程度で記述すること。

Write a research essay about the following topic. Include a list of references at the end of your essay. You may write in English or Japanese. Please choose the language you are more comfortable in. If you choose to write in Japanese, the essay should be about 5,000 characters. If you choose to write in English, the essay should be about 2,500 words.

留意事項

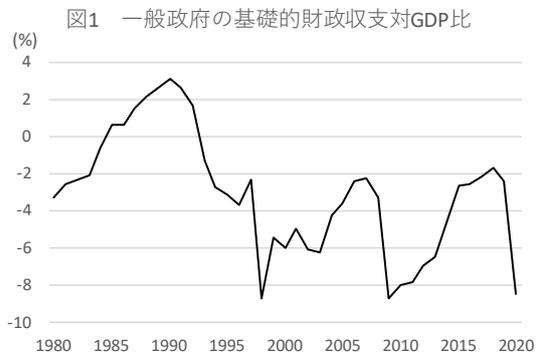
- ・ 小論文は文章作成ソフトで作成し、印刷したものを出願時に提出すること（Emailでの提出は不可）。手書きの原稿は認めない。
- ・ 小論文の様式は任意。ただし、A4またはレターサイズの白色用紙使用のこと。
- ・ 問題の番号と氏名を小論文の全ページの右上に明記すること。
- ・ ページ番号を小論文の全ページの下中央に明記すること。
- ・ 小論文の末尾に参考文献を必ず明記すること。参考文献の字数／語数は、小論文の字数／語数に計上されない。なお、APA、シカゴスタイルなどの適切な書式で参考文献を表示すること。

Instructions for essay submission

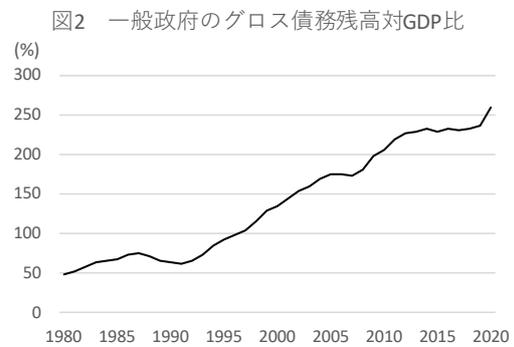
- ・ Your essay should be typed and printed. Handwritten essays will not be accepted. The essay must be included in your application materials. Essays sent through email will not be accepted.
- ・ There are no rules for formatting. Use either A4 or letter size white paper for printing.
- ・ Include the essay topic number and your name at the upper right corner of each page of your essay.
- ・ Include page number at the bottom center of each page of your essay.
- ・ Include a list of references at the end of your essay. The number of characters/words of references will not be counted in the total number of characters/words of the essay. You are advised to follow major citation styles, such as the Chicago and APA styles.

問題

日本政府は2025年度に国と地方の基礎的財政収支（プライマリー・バランス）を黒字化する目標を掲げている。図1は、日本の基礎的財政収支の対GDP比が1980年以降どのように推移してきたかを表している。日本の基礎的財政収支は1980年代後半から1990年代前半にかけて一時黒字になったが、その後は赤字が続いているため、税収が歳出を下回り、公債残高が増加し続けている。図2がこのことを表しており、2020年の国と地方政府を合わせた債務残高はGDPの2倍を超えている。これらの表を見る限り、日本政府の見通しは楽観的であると言わざるを得ないのではないだろうか。



資料：IMF World Economic Outlook Database



資料：IMF World Economic Outlook Database

では、日本の基礎的財政収支をプラスにするにはどうすればよいだろうか。日本以外の国（最低1カ国）の状況と比較しながら、あなたの考えを述べなさい。その際、経済学（財政学）や政治学、政治経済学などの分野の観点から論じてもよいが、必ず参考文献にもとづいて論ずること。